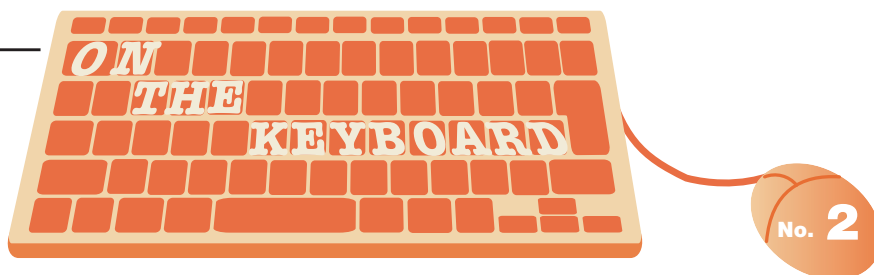


By Maya Jones



マヤ・ジョーンズ

1994年、英国・イングランド南東に位置するハンプシャー州生まれ。父親が英国人、母親がコロンビア人という家庭で育ち、幼少期から外国語と異文化に興味を抱く。2021年、ロンドン大学卒。専攻は日本語。在学中に来日し、1年間、東京外国語大学で学んだ。英国で開催された大学生対象の日本語スピーチコンテストで優勝するなど、卓越した日本語力を生かし、22年9月から東京都大田区の「おおた国際交流センター (Minto Ota)」で国際交流員として多文化共生を促進する仕事に従事している。趣味は絵画、写真、旅行、音楽・美術鑑賞など多岐にわたる。

## British vs. American English presents a different look in English writing

I was born in the United Kingdom and lived there for most of my life. So, when I moved to Japan, and started having to use American English in my translations at work, **it took some getting used to**. You may already know that Brits spell certain words, like 'colour', with a 'u', or that we write other words, like 'centre', with 'r' coming before 'e'.

But these differences aren't always as **clear-cut** as you might expect. For example, in certain parts of England, such as **the Midlands**, 'mom' is spelt with an

'o' instead of a 'u', just like in America!

Similarly, although many people think that British English spells words such as 'realize' with an 's' instead of a 'z' as in American English, Oxford Dictionary spelling, used by many major U.K. **publications**, favours the '-ize' spelling. Of course, the differences between American and British English are not limited to spelling.

Our vocabulary, pronunciation, and even the way we use **punctuation** differ, too. The single quotation marks I've been

using throughout this very article are typical of British English. We also put the commas and full stops (known as 'periods' in American English) outside the quotation marks in certain cases, as I have done here.

Some words, such as '**chips**' and '**pants**', mean completely different things in each country — an American friend of mine once mistakenly thought I was referring to money when I described my room as 'a tip', meaning 'messy' in British English.

If you've listened to the audio

recording of this article, you may have noticed that I also pronounce many words differently to what you might be used to.



音声は本文と一部異なる場合があります。

### it took(take)...to

慣れるには多少時間がかかった

### clear-cut

明確な、分かりやすい

### the Midlands

(英国)ミッドランド地方。英国の中部地方でパーミンガムやノッティンガムを含む

### publication(s)

出版物

### punctuation

句読点を付けること

### chips

(通例、複数形で)英国では「フライドポテト」、米国では「ポテトチップ」の意味

### pants

(通例、複数形で)英国では「(下着の)パンツ」、主に米国では「ズボン」の意味

対訳

## 英国英語と米国英語は、英作文で見かけが異なります

私は英国で生まれ、人生の大半をそこで過ごしました。ですから日本に来て仕事の翻訳で米国英語を使わなければならなくなったとき、慣れるまでに少し時間がかかりました。英国人が「colour」など一部の単語に「u」を付けたり、「centre」など単語によって「e」の前に「r」を書くことがあるのは、皆さん既にご存じかもしれません。

でもこのような違いは、想像されるほど常に明確とは限らないのです。例えばミッドランド地方をはじめとするイングランドの一部の地域では、米国と同じで「mom」が「u」でなく「o」とつづられます！

同様に、英国英語では「realize」を米国英語の「z」ではなく「s」でつづると広く思われていますが、英国の主要な出版物で採用されているオックスフォード式つづりでは、「-ize」が推奨されています。当然ですが、米英の英語の違いは、つづりにとどまりません。

単語や発音、句読点の付け方にさえ違いがあります。まさに本コラムの記事を通して私が使っている単一引用符は、英国英語に特有なものです。

また、場合によってコンマやフルストップ(米国英語でいうところのピリオド)を、私がここでしているように引用符の外に付けることもあります。

「chips」や「pants」といった一部の語は、それぞれの国で全く違う意味になります。以前、私が自分の部屋を「a tip」と形容して、お金のことを言っているのだと米国人の友人に誤解されたことがあります。英国英語では「散らかっている」という意味なのです。

この記事の録音を聞いていただいたなら、私が多くの語を皆さんの聞き慣れたものと違う形で発音することにも気付いたことでしょう。

(訳 田端節子)